



各 位

2023年2月3日
会社名 三 菱 製 鋼 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長執行役員 山 口 淳
(コード番号 5632 東証プライム市場)
問合せ先 執行役員経理部長 柳 沼 康 一
(TEL. 03-3536-3135)

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2023年3月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想の修正について

2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日)通期連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	180,000	5,500	4,500	2,700	175.83
今回修正予想(B)	175,000	6,500	4,500	2,700	175.83
増減額(B-A)	△ 5,000	1,000	0	0	
増減率(%)	△ 2.8	18.2	0.0	0.0	
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	146,292	6,270	5,780	4,068	264.78

2. 修正の理由

急速に円安が進んでいた為替相場が足元では円高傾向に推移していることから、売上高は、為替換算影響により前回予想を下回る見込みです。

利益面では、為替相場の変動により、特殊鋼鋼材事業において、輸入原材料価格の上昇が前回の見込みに比べ緩和されることに加え、ばね事業においても、北米子会社の損失に対する為替換算影響が軽減される見込みです。また、北米ばね子会社における生産混乱解消に向けた施策や原材料価格の高騰等に伴う売価転嫁が順調に進捗していることもあり、営業利益は前回予想を上回る見通しです。

(為替レート)

前回公表時点の下期想定レート: 1 \$ = 145.00円

3Q実績レート: 1 \$ = 141.38円 (2022年10月～12月平均TTMレート)

4Q想定レート: 1 \$ = 130.00円

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、営業利益の増益を見込むものの、円安の解消に伴う外貨建て資産の為替評価損を見込むことから、前回の予想から修正はありません。

(ご参考) 営業利益予想の推移

(億円)

	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q予想	通期
前回予想	8	9	38		55
今回予想			12	36	65

- ・ 特殊鋼鋼材事業において、円安の影響により高騰していた輸入原材料価格は、足元の為替相場が円高傾向に推移していることにより、第4四半期では原材料価格の高騰が緩和される見通しです。
なお、上期に高騰した原材料価格に対する売価転嫁は順調に進捗しているとともに、インドネシア海外子会社 (PT. JATIM TAMAN STEEL MFG.) についても、前期より営業黒字化を達成し、今期についても計画通り増益を見込んでおります。
- ・ ばね事業において、国内及び北米を中心に生産コスト増に対する売価転嫁が進むことで、第4四半期の損益は、売価未反映であったコストアップ分の遡及回収による一過性の増益要因を含め、大幅に改善する見通しです。
なお、生産混乱の発生により多額の損失を計上していた北米子会社では、再建に向けた以下の施策を進めております。
 - ・ US工場の稼働率向上により、在庫積み増しを図り、カナダ工場の生産混乱を早期に収束、緊急輸送対応費用を削減する。
 - ・ 材料市況以外のコストアップ分の売価転嫁を交渉中。

足元の状況としましては、再稼働したUS工場の稼働率向上により、在庫の積み増しは計画通り進捗しており、緊急輸送対応は解消傾向にあります。コストアップ分の売価転嫁についても、不採算製品の取引解消も含めた交渉は着実に進展しており、来年度以降の黒字化に向けて、引き続き損益悪化要因の抜本的解決に向けた施策を実施してまいります。

以上の通り、当第4四半期の大幅な利益改善は、一過性の増益要因(売価未反映であったコストアップ分の遡及回収)による部分もあるものの、最大の懸念であった北米ばね子会社の再建も計画通り順調に進捗しており、さらなる業績の改善に向け、引き続き各種取り組みを推進してまいります。

(注)上記の業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。

以 上